

人権尊重社会をめざす県民運動事業

第10回秩父郡市人権フェスティバル開催

期 日 10月21日(水) **時 間** 午後1時～4時 **場 所** 文化会館

内 容

■ステージプログラム

- ・オープニングイベント
カーサ・ミナノの皆さんによる器楽演奏ほか
- ・人権作文の発表
皆野中学校・長瀬中学校の生徒各1人
- ・講演「取材現場から」～私の出逢った人たち～
講師：家田荘子先生（作家・僧侶）

■ホワイエ

- ・人権標語展示
- ・手作りパンなどの販売
障がい者支援施設(さやか)
- ・野菜直売(秩父農工科学高等学校)
- ・人権啓発物品配付

入場料 無 料

主 催 秩父郡市人権教育・啓発推進連絡会議

問合せ 総務課行政担当 ☎62-1230 内線203

人権作文

「病院でのでき事から」

国神小学校5年

設楽 はるかさん

わたしのおじいちゃんには、おばあちゃんがいまません。おじいちゃんには、大切なおばあちゃんが無くなり、いないのです。おじいちゃんの生活のさきえであつたおばあちゃんがいなくなると、一人であつたことになったのです。

しかし、その後、病気になつてしまつたのです。わたしたちとはちがう、遠くはなれた県にすんでいました。だから、わたしの母の姉のうちに移ることにになりました。そこで、病院へ通院しました。すると、手じゅつをしなくてはならないという結果でした。

その後、手じゅつをしたものの痛みなどは残るようで、完全には、なおらないようです。

また、今度は、わたしの家に移りました。ですが、今は、病気が再発したため入院しています。わたしは、よくおじいちゃんのおみまいに行きます。

ある日、わたしは、お父さんと病院へおみまいへ行きました。その日は、先生からお話があ

るということと先生を待つていました。数分後、おじいちゃんの前部の部屋のおばあちゃんたち二人がトイレの前で車いすと車いすがぶつかつて動けないじょうたいになつていたのでした。わたしは、それにお父さんより早く気づきました。それなのに、何も助けてあげることができずにいました。それに気がついたお父さんは、まよいもせず車いすを動かしてあげました。わたしは、なぜあんなとき助けられなかったのか、本当にはずかしく思います。

その後、部屋の外へ出て数十分後、わたしの前を足を引きずつてあるくおばあちゃんが来たのです。わたしは、今度こそと思ひ、勇気をふりしほりおばあちゃんの手をとつてトイレまでつれていつてあげられたのです。わたしは、そのしゅん間、心がポッカーとあたたまり、そのおばあちゃんも、笑顔で、「ありがとね。お姉ちゃん。」と言われ、ますます心があたたまりました。

わたしは、その時わかりました。「人は、だれでもだれかの助けがいると言うこと、世界のみんなが協力しなければならぬこと。そして、もう一つ、人には大切な人がいる。その人が

いなくなれば、とてもさびしく心細くなる。でも、その人のことを周りの人が助けてあげれば、その人は、また晴れた笑顔を取りもどせる。だから、そのためには、周りの人がその人をさきえてあげないといけない。人はみんな、さきえあつて生きていく。みんながさきえあわなくて、ひとは生きていけない。」

わたしは、そのことをきつかけに、お年寄りだけでなく、色々な人にやさしくできるようになりました。だから、これからも、やさしくさきえあつて生きていきたいです。世界中のみんながさきえあえば、せん争やさつ人、色々なことがなくなり、仲の良い平和なぐらしがいつかできると思ひます。そのために、みんながさきえあひのできる、世界ができるように努力したいです。

